

「心に励ましを受けるように」

詩篇
エペソ人への手紙

第33章20節～22節
第6章21節～24節

説教 岡村 恒牧師

『あなたがたが、心に励ましを受けるように。』別の言い方をすると『あなた方の魂が配慮され、魂に本当の慰めを得るように。』パウロはエペソ教会の一人一人の顔を思い出しながら、この手紙を書いています。激しい迫害の中で、イエス・キリストこそ救い主だと信じて生きる人々がいました。パウロは、この教会が救いの喜びに満たされて歩むように、これだけは伝えずには死ねない、そういう情熱をもって語っています。

本来受けることができないはずの者が、受け取ることのできない物をいただくことを、聖書は〈恵み〉呼びます。主イエスを信じる者は、恵みによって罪を赦され、神の者とされます。そうして神に結び付けられた者が生き始める時、人間同士の関係も変えられていきます。パウロはこのように福音の核心部分を語り、そして最後に、福音を大胆に、どこでも、誰にでも語ることができるように祈ろう。私のためにも祈ってほしい、と語り終えました。

そして主にあって忠実に仕えている、愛する兄弟テキコにこの手紙を渡してエペソに派遣しました。当時、パウロの手紙はエペソの教会で読まれた後、コリントやコロサイ、別の所で回覧されたようです。「彼をあなたがたのもとに送るのは、あなたがたがわたしたちの様子を知り、また彼によって心に励ましを受けるようになるためなのである。」(6章22節)単に新しい情報が伝えられ、知識の空白が埋められると言う話しではなく、慰めが届けられるという話しです。

1人で聖書を読むだけで神のメッセージを受け取ることができるとしたら、私たちは日曜日ごとに教会に集まる必要などありません。テキコがエペソの教会までやって来て、直接パウロの手紙を読み上げた時、まるでパウロ自身がそこにいるかのように、朗読を聞いたに違いないと思います。そこには人格的な出会いがあります。

代々のキリスト教会は日曜日の朝ごとに集まりました。今日も、公同の礼拝が世界中で行われています。そこに集まる人々が、あの日のエペソ教会の人々と同じことを体験するためです。神について、救いについての知らせが読み上げられ、神ご自身が語りかけてくださるかのように神の言葉を聴き取って、礼拝のただ中で、神ご自身に出会うためです。

「心に励ましを受ける。」ローマ人への手紙で

は『勧める』と訳されている言葉です。先週、役員及び教会学校教師・文庫担当者の任職式を行いました。そして勧告を申し上げました。その言葉の背後には全て聖書のみ言葉がありました。教会ではこの勧告を『牧会』と言う言葉でも呼びます。魂への配慮とも言います。

神ご自身が語りかけ、私たち一人一人の魂に手を伸ばして、神を信じ、讚美して歩むことができる者へと創り変えてくださるのです。「父なる神とわたしたちの主イエス・キリストから平安ならびに信仰に伴う愛が、兄弟たちにあるように。」(6章23節)という挨拶は、この神による牧会の約束を語っています。

この結びのすぐ前でも、主イエスを信じた者が神の力によってキリストに結び合わされ、本当の力を与えられることが記されていました。この信仰に伴う力は、〈愛〉と言い換えても良いものです。神の愛は力のある愛だからです。神の絶大なる力、絶大なる愛によって、私たちは生かされ、この地上の旅を歩むことができるのです。

「変らない真実をもって、わたしたちの主イエス・キリストを愛するすべての人々に、恵みがあるように。」(6章24節)私たちが主イエスを愛し続けることなど本来できないことです。私たちが抱く愛はいつでも不確かで消え去るような愛です。しかし神が私たちを主イエスに結び付け、その絶大な愛を注ぎ入れてくださいます。神が、あなたたちは変らない真実を持って主イエスを愛し続ける存在だと、私たちに向かって宣言して下さるのです。

主イエスによる救いの約束を信じて生き始める時、私たちの地上の旅も、人間関係も豊かに変えられると、この手紙は語ってきました。神ご自身は、永遠に変わることはない真実なお方です。神ご自身が共に歩んでくださるので、私たちも、変わることはない真実を持って主を愛する者として生きることができるのです。

あなたを愛する愛を燃え立たせ、愛し続けて生きることができるように一日一日歩ませてください。この祈りに神は応えて、神ご自身の約束を、私たち一人一人の生活の中で実現してください。これは確実なことです。

(記 説教要約奉仕者)